2024 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092400029		
法人名	医療法人 城戸医院		
事業所名	グループホームぶどうの樹	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字久富667-3		
自己評価作成日	2025年1月14日	評価結果市町村受理日	2025年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2025年2月3日	評価確定日	2025年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">運営推進会議（講義等実施）、家族会学習療法セラピューティックケアぶどう食堂
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>“グループホームぶどうの樹”は開設から18年を迎える。管理者、ケアマネ等を中心に結束しており、外国人職員の指導も細やかに行われている。職員の母親的存在である管理者の心配りも素晴らしく、働きやすい職場となっており、施設長（事務長）との情報交換も密に行われている。「医療法人 城戸医院」が母体法人であり、日曜日以外は院長先生が往診に来てくださる。終末期ケアも行われており、院長先生、管理者、ケアマネ等と城戸医院で会議を行い、医療面においての現在の状況や改善策を、毎月30分程話し合っている。系列事業所の看護師、PT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語聴覚士）との連携もできており、適宜アドバイスを受けている。敷地内に系列の保育園等もあり、園児との交流も楽しみの一つになっている。日々の食事も大切にされており、季節感のある食事を提供し、食事の喜びを感じていただいている。入居者の方もツツの皮むきやジャガイモ等の収穫を手伝ってくださり、「おやつ作り」も毎月生まれ、お好み焼き、梅が枝餅、恵方巻、盆だごや干し柿と一緒に作られている。今後は更に外食行事も検討していきたいと考えている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>コロナ禍が少なく面会も出来る事となり本人、ご家族様と関りを密に行い一人一人が生きがいのある生活を過ごして頂けるようにしている。</p>	<p>「第二の我が家のホーム・生きがいのあるホーム・開かれたホーム・家族とひとつになれるホーム」という理念を大切にしている。管理者・職員が結束し、家族も一緒に「ひとつになれるホーム」を目指した取組みを続けている。日中の活動の中で一人一人、役割を持っていただくことで生きがいに繋げており、個人のペースに合わせた活動を行うことで、自宅にいる時に近い生活ができています。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域デイサービスの参加を行い、職員が地域と関わるようにしている。また、併設の保育園の運動会の応援等の参加も行っている。</p>	<p>地域に密着した取組みを続けてこられた。ホーム名の由来である、ホーム周辺の”ぶどう畑”の方から美味しいぶどうを頂いたり、地域のゴミ出し場等の掃除に職員が参加している。敷地内の保育園児との運動会で玉入れ等を楽しまれ、敬老会、クリスマス会の時も一緒に交流している。2か月に1回「松原ぶどう食堂」が施設内で開催されており、地域や子供たちの参加が多くある。ボランティアの参加も多く、入居者の方々との関わりもできている。今後も「松原ぶどう食堂」を通して、地域の方々との繋がりを増やしていく予定である。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議などを通して研修会を開催している。また、職員研修なども定期的に行い理解を深めている。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナも5類となり、開催回数も増え、施設の取組みや行事報告を行い地域の共有も行えた。</p>	<p>コロナ禍は書面会議が行われていたが、5類以降は対面開催ができており、会話が弾んでいる。運営状況の報告、薬剤師から薬のお話、セラピューティックケアの講義、歯科医師の講義等とともに、松原ぶどう食堂の取組み紹介や意見交換が行われている。</p>	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで市の職員や民生委員、薬剤師、地域包括の方からの助言などをいただき関係性の構築に努めている。	運営推進会議の際に、市の職員や地域包括の方がホームの実状を理解してくださっている。加算関係の相談、事故報告（クラスター含む）を市の職員に行い、アドバイスを頂くとともに、松原ぶどう食堂の開設に伴い、市の福祉課の方と情報交換を続けてこられた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的開催し、日々のケアを見直し勉強会も行っている。長時間の座位の軽減を行い、ソファーなどで過ごしていただけるように配慮したり、声掛けに関しても、意識、配慮している。	院長、施設長、管理者等を含め、開設以来「身体拘束は全体にしない」という思いを継続している。日本人職員とともに、外国人職員（特定技能実習生等）も、とても優しく入居者の方々に寄り添ってくださり、安心して過ごせるように努めている。身体拘束の勉強会を行い、身体拘束廃止委員会で「身体拘束〇の手引き」を活用し、日々のケアの振り返りを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会、研修を行い、利用者様のケアに活かし、身体状況の変化に注意し、虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会での制度の理解や知識を得ている。	制度のパンフレットを使用し、入居時に家族に説明しており、入居後も制度の必要性を検討している。制度を利用する方もおられ、情報交換している。権利擁護の外部研修の内容を伝達研修し、ケアマネが会議で事例紹介等を行うとともに、筑後市地域包括支援センター等の勉強会に参加している。家族会で権利擁護の勉強会も行われた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要項目に対し時間をかけて説明し、理解の上同意を得ている。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や来訪時、電話でのやり取り時にご家族様から要望を聞き取り、スタッフに意見の反映を行っている。	コロナ禍も面会できるよう、ホーム裏に「面会棟」を建設した。感染状況に応じて面会棟での面接や、リビング外のバルコニーから窓越しに面会されている。毎月の通信とともに、お手紙を家族に郵送したり、電話で情報交換しており、運営推進会議の後に家族会も行われている。今後も職員全員が、家族の方々と関われるように努めていく予定である。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞き、年に2回個人面談を行い、意見を聞く機会を設けている。	職員が気軽に相談できる環境を作り、報・連・相の徹底と情報共有に努めている。管理者が母親的存在であり、個人的な相談も受けしており、必要なサポートを続けている。新人職員には教育担当を付け、上司に都度相談しながら新人職員の良いところを探し、良いところを伸ばすようにしている。院長先生、施設長もホームの現状を理解し、密に情報交換を続けている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲の向上に努め、互いに支え合い、協力体制を行っている。	
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用に関しては年齢・経験を問わず面接を行っている。全スタッフがいつでも相談できる環境を作っている。	施設長、管理者、事務主任が面接している。男女・年齢・国籍問わず、お人柄等とともに、個人の気持ち（やる気など）やビジョンを大切にしている。職員個々の課題に対する目標を設定し、院長や施設長、管理者等が指導している。セラピューティック・ケアや介護福祉士の実習指導、学習療法（実践士やマスターなど）等、職員個々の資格を活かし、活躍して頂いている。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域人権セミナーへの参加や法人内研修の開催。会議での議題として行っている。	施設長は「入居者の人権を尊重し、ご本人が不快になる声かけをしない」等を職員に伝え、介助方法に対するアドバイスも行っている。管理者は「入居者は目上の方、人生の大先輩である」事を職員と共有し、実践に繋がるよう指導を続けている。外国人職員の方々も優しく、羞恥心への配慮も日々行っている。「人権セミナー」は複数のテーマがあり、職員全員が2回に分けて受講している。

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
15	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの研修に参加できるため勤務の調整を行っている。また自施設でも、独自に研修を行っている。	
16	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者との交流の場に出席し、意見交換などで刺激を受けながらサービス向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
17	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が関わりを持ち、要望や不安な事を傾聴し上司に報告し職員間で話し合い、信頼関係づくりに努めている。	
18	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に施設代表・管理者・ケアマネージャーが関わり、いつでも問い合わせ可能な状態にしている	
19	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を一緒に検討し、双方で確認し、状況変化の場合も支援方法の提案が出来るように努めている。	
20	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩という気持ちを忘れず、尊厳を大切に、職員の話を変えたコミュニケーションを図り関係性を築いている。	
21	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会を大切にしており、ご意見やご要望を取り入れるようにしている。家族会に参加頂き、利用者やご家族様や職員との関係も築いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの人、場所を記録し、職員間で共有し、話題を増やしている。ご家族様より思い出の写真を頂き、アルバムや居室内に提示しています。	アセスメントに生活歴（幼少期～壮年期にかけての状況や趣味・馴染みの場所や人）を記入している。地元周辺の方が多く、コロナ前は馴染みの場所を散歩したり、ドライブする機会が作られていた。現在も家族や知人等が来てくださり、面会時は記念撮影をしている。今後も感染症の状況を見ながら、外出の機会を作っていく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の参加や運動や歌等又食事の時に入居者様同士で会話が出来るように誘導している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議や行事等の呼びかけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望や不安のなどを取り除けるよう都度意思疎通を行い、穏やかに過ごせるよう関わりを行っている。介助以外に1対1の関わりを増やしている。	「今日は何をしますか」と問いかけるようにしており、日々の想いに寄り添うように努めている。「家族に会いたい」等の思いを大切にされており、自宅で食事を楽しまれた方もおられる。2018年度まで「夢を叶えるプロジェクト」を実施していたが、重度化している方が増え、皆さんで楽しめる企画を増やしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の打ち合わせでご家族様に家族歴や生活歴などの情報を聞き取りをし、プランでGHの生活に慣れていただけるようにサービスの説明を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の状態を把握し、身体状況や精神状況を確認している。身体の異変に関しては主治医・看護師と報告・連携し変化に応じて対応を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催の都度、主治医からの助言を基に、利用者様の課題の説明とご家族様に要望の聞き取りを行い、ケアの説明を行っている。利用穏やかに利用者様の生活が出来るように話し合いを行っている。	アセスメントに「生活歴」「趣味」「馴染みの場所や人」「性格」等の記載があり、人体図の主訴や症状等とともに、「有する能力」「介助やBPSD行動の理由」等を増やしている。ご本人と家族の意向を大切に、計画作成担当者が原案を作り、職員間で検討している。主治医や看護師からの留意点も記載し、転倒予防対策でヒッププロテクターの着用も記載している。2023年春から新ソフト（ワイズマン）を導入している。	①今後もADL・IADL（食事、片付け等）の「できそうな能力」「各活動の要望」「解決策」等を増やしていく予定である。 ②介護計画（2表・日課表）のケア内容を詳細に、かつご本人と家族が理解しやすい表現を心がけるとともに、アセスメント内容と介護計画（2表・日課表）を連動させていく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で利用者様の変化などがあれば、記録し、主治医に状況報告しスタッフが共有出来るようにしている。介護計画がすぐに見られるように個別ファイルに添付している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普段のサービス以外に併設の児童との敬老会やハロウィンなどの関りを増やしている。子供達との関りで利用者様も喜ぶ姿が増えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の行事などがあれば、自立された利用者様が参加出来るように行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入所時にご本人様・ご家族様の希望により決定を行っている。担当者会議の都度治療方針やご家族様の希望を考慮し、留意点や治療方針の決定を行っている。	全での入居者は城戸先生が主治医である。日曜以外は往診があり、健康状態などを報告し、適宜ケア面等の指示を受けている。月1回、城戸医院で主治医、管理者、ケアマネ等と会議を行い、医療面における現在の状況や改善策を30分程度話し合っている。歯科医師の往診もあり、義歯洗浄機や歯ブラシなども提供して下さる。系列のデイの看護師に相談でき、必要時はホームに来てくださる。系列事業所のPT・OT・STと連携でき、リハビリ内容や摂食嚥下等のアドバイスを頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人様の身体の変化は介護職が看護師から主治医に状況報告を行っている。身体の状態によっては主治医からご家族様に状況説明しスムーズに治療が開始出来ている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメント状況を提供している。補足で電話などで詳しく情報の共有を行っている。退院できるように現場の体制を整え主治医にも状況報告を行っている。退院前には訪問し直接医療面での注意点の確認を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、同意を得ている。状況が変わると同時に担当者会議の開催を行い、ご家族様が希望する看取りの意向確認を行っている。昔の馴染みのある終末期の実現にご家族様にも協力して頂き、スタッフとケアの統一を行っている。	「最期までここで」と願う方が多い。24時間体制で院長先生や施設長、管理者等と連携でき、職員全員で終末期ケアの方針を共有している。好きな音楽を流し、好まれる食べ物を準備するなど、優しいケアを続けており、家族の方々とも密に情報交換し、家族の思いに寄り添われている。ご本人が何を望まれているのかを大切に、苦痛緩和や心理状態の軽減などを含め、多職種連携を続けている。	今後も更に、全ての職員に「体調変化を見極める判断」「迅速な報告」「相談方法」とともに、「ぶどうの樹」で重視している終末期ケアのあり方（ケア内容）等を共有していく予定である。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生の際はマニュアルに沿って対応を迅速に行っている。定期的に救命の訓練をの研修会を行い緊急時の対応に備えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から、シフトでの役割を把握して避難誘導のシミュレーションを行っている。地域の協力体制には至っていない。	敷地内の事業所全体で年2回訓練している。消防署も一緒に訓練しており、保育園の子ども達も避難している。夜間想定に向けた会議や訓練は毎月行い、ショートステイを含めて夜勤者は2人勤務し、協力体制もできている。火災・地震・風水害マニュアルを作成し、職員の意識付けもしている。水、食料（米・缶詰など）、防災ラジオ、懐中電灯などを準備し、地域の救命ステーションの認定も受けている。BCP（事業継続計画）を作成し、訓練計画も作られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を全スタッフが把握しその方に応じた声かけで対応している	外国人職員の方々を含めて優しい職員ばかりで、目上の方に対する呼び方に留意し、方言も使いながら、敬意を払って接している。排泄介助や更衣の際も自尊心と羞恥心などに配慮し、さりげなく介助を行うようにしており、個人情報の管理も徹底している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面で本人」の思いを尊重し自己決定できるよう心がけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを理解しその方らしい生活が出来るよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の定期的な実施を行い身だしなみを整えている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に応じた食事形態にしている	朝食は夜勤者、昼食は調理師（栄養士）が手作りにしている。夕食はホームでご飯を炊き、副食は出来立ての食事が宅配で届いている。季節感のある食事を日々提供し、食事の喜びを感じていただいている。入居者の方もツワの皮むき、敷地内でジャガイモ等の収穫を手伝ってくださり、月1回は「おやつ作り」を楽しまれ、お好み焼き、梅が枝餅、恵方巻、盆だごや干し柿等を一緒に作られている。今後は外食行事も検討していきたいと考えている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の嚥下状態に応じて支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や歯科往診の定期的実施を行い、何にかあれば歯科との連携を図っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に誘導をおこなっている。排便状況によって早めのトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表の活用とともに、ご本人の表情、しぐさを確認しながら早めの声かけを行っており、失禁が減った方もおられる。排泄の際はトイレの扉を閉め、外で見守るようにしている。立位、足の踏ん張り状況等に応じ、トイレでの排泄に繋げており、難しい方はオムツを使用している。尿量に応じてパッドの種類を個々に検討し、昼夜オムツの方も褥瘡を作らない（悪化させない）取組みを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分多めに摂取して頂く、トイレの例は腹部マッサージを行う。個別で運動も行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の希望があれば入浴日を変更して入浴行っている	湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれている。ラジオの音楽等を聴きながら入浴する時もあり、柚子湯や菖蒲湯等も楽しまれている。シャワー浴の方もおられ、掛け湯や足浴等で保温に努めている。敏感肌の方はシャンプーや肌のケア用品に配慮し、拘縮している手指等も丁寧に洗う介助を続けている。できる範囲はご自分で洗われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体機能に合った寝具を用意し良く眠れるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を各職員が把握し、状況に応じて主治医や看護師に相談し服薬支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から役割を見出し趣味、余暇活動に活かしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて施設周辺に散歩に出かけている。季節感を味わっていただく為、紫陽花やコスモス見学等を実施している。	バルコニーで健康体操や歌を唄ったり、近所を散歩している。八女市立花町のコスモス畑を見学でき、桜、紅葉、銀杏見学など、季節の花見を楽しまれている。2か月に1回『松原ぶどう食堂』が敷地内で開催されており、地域の子ども達、ボランティアの方々と交流できている。コロナ以前はお花見に行き、お弁当を食べたり、買物や外食、“恋ぼたる”で足湯、水田陶芸教室でお皿作り、柳川さげもん見学と共に、家族も一緒にセキアヒルズ（南関）等でバイキングを楽しまれていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理（お小遣い）は施設で行っている。買い物の際は出来るだけ本人にお金を払って頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話や手紙を頂き、本人が直接話したり、代わりに職員がご家族様にお伝えしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に換気をしている為、共用空間の温度には特に気を配っている。バルコニーを活用し季節を味わいながら生活している。	リビングは広く、天井も高く、開放感がある。WBG T値を把握し、エアコンや加湿器を使用して温湿度管理に努めている。テレビの前にソファが4つあり、入居者同士で団欒したり、リハビリ、パズル、学習療法などを行っている。廊下に壁新聞を貼り、思い出話をされたり、バルコニーでお茶を楽しまれる時もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	別テーブルやカウンターを活用し会話が弾むように配慮している。ただし、体調や状態の変化によって変更を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とも相談して、使い慣れた物を持参していただき、設置している。	居室入口に表札があり、写真や作品を飾っている。フローリングの居室に畳を敷き、転倒時などのクッション替わりになっており、体調等に応じて電動ベッド（低床）を利用する方もおられる。職員等は居室入口で靴を脱ぎ、入室している。寝具、家具、タンス、CD、ラジオ、本、アルバムなどを持ち込まれ、息子さんが書かれた絵を飾られている方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表記や手すりを設置して出来るだけ自立できるような環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				